

- ・巻頭コラム(杉浦良)
- ・お知らせ(頂いたお米を寄贈、
県職員 NPO 研修)
- ・太陽と緑の会からの助成報告
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

211 号/2025.12 ▶ Since 1984

「ほんまに難しいわ・・・」

杉浦 良

「福祉制度が進めば問題が解決され、ハンディーを持ったメンバー達にとってもより良い社会になるのでは？」

そんなことを思ったのは随分昔のことです。2006 年（平成 18 年）に障害者自立支援法が制定されました。3 障害バラバラだった福祉制度が一つに統一された画期的な制度と、福祉関係者の期待が膨らんだのをよく覚えています。

ただ利用料が徴収されるということで随分批判されたことも記憶しています。

収入のある方（世帯）から 1 割の利用料（現在最高限度額 37,200 円）を負担するというもので、収入の少ない方（世帯）は減免措置がとられるので、全ての方が利用料を支払うというものではありません。



「サービスを受ける側」と「サービスを提供する側」、「支援を受ける側」と「支援する側」に分かれてしまうので、「分けない」「共に働く」ことを中心に置いた福祉関係者からは問題を指摘されたこともあります。

リユース品の値札付け作業（県職員 NPO 研修）

随分昔、障害者自立支援法の説明会で「・・・障害者が生きるのにお金を払わなくてはならないのはおかしい！と言われる方もおられますが・・・利用料といっても一割で・・・減免措置もありますし・・・お金に余裕のある方（世帯）から少しは頂くのも必要かと・・・いいんですか？・・・もし制度が成り立たなくなってしまうたら・・・」

そんな言葉を絞り出す方がおられました。その方の語り口調と表情が今でも思い出されるから不思議です。説明会ですから概念と概略、制度内容を説明されればそれで仕事は終わりと思いますが、講師として来られた方の思いがあふれ、少しこぼれ落ちたのでしょうか。

まだ平成 18 年頃は今ほど国の借金も多くなかったでしょうが、右肩上がりの成長する日本経済でもなかったと思います。しかしその頃持続可能性を心配される方の存在をほとんど知らなかっただけに、今振り返るとその発言が重みを持ってきます。

「増やすことには大賛成だが、減らすことには大反対だ・・・負担を少しでも減らし、増やすのは絶対あかん・・・」とすればその財源をどうするか？借金するかどこかを減らすか、税を増やすか？を考えなければなりません。また貧富の差が開くほど、今までの福祉制度が適応しにくくなりますし、人々の分断も激しくなるでしょう。

インパクトあるショートメッセージに爽快感はありますが、そこに解決の糸口を見つけない、というのが私の経験的推論です。

気が付けば「共に働く」「分けない切らない」といった言葉を耳にする機会が減ったように思います。障害者自立支援法が当たり前になり、障害者総合支援法が行き渡り、障害者ビジネスが幅を利かします。物価は上がるが、社会保険料も介護保険料も減ることはなく、年金は目減りし、災害対策費や防衛予算は増やさなければならない『今』があります。

実質賃金が目減りする中、給与の増額が叫ばれますが、内部留保が潤沢な企業は別として、中小零細企業の倒産・廃業の増加を見れば、最低賃金の増額を簡単にクリアできるところは少ないでしょう。売り上げが伸びない、利益確保が出来ない、それは経営者の努力が足りないからなのか・・・公的助成で成り立つ団体はどうか？職員の労働時間を短くするしかないのか・・・NPO 法人は会費や寄付や補助金を増やせるのか？・・・労働者協同組合は組合員の出資を増やし事業を拡張し、組合員の努力で収益を増やせるのか？そんな疑問が山積します。

「二つ良いこと、さて、無いもんよ、のう・・・」とすれば「良いことと、悪いことと分別して、良いものを選んだら・・・」そうは言っても「短期的には良くて、長期的には問題がある場合は・・・」そうウロウロ考えているうちに「力は正義、強者が勝利する・・・それが必然だ」となれば、どだいソーシャルウェルフェア（福祉）など、パストラル権力（羊飼いの権力）の都合の良い奴隷としてしか機能しないのでは・・・そんな勝手な思いがグルグル巡ります。

「ほんまに難しいわ・・・」

今年最後を締めくくる言葉です。

お知らせ

頂いたお米を寄贈

9月30日、㈱エコリース森本哲夫会長とエコリースの社員の皆様が、知り合いの方から直接仕入れて下さった「新米」を、トラックに満載して当会に持って来て下さいました。

「今年はお米の値段が高騰して、昨年のようにはいかないけれど・・・」

そんな有難いお言葉を森本会長から頂戴しました。

頂いたお米は下記のように寄贈させて頂きました。

フードバンクとくしま 30キロ15袋(450キロ)
(社福)徳島児童ホーム 30キロ10袋(300キロ)
(特非)クレエール 30キロ5袋(150キロ)
城満寺(海陽町) 30キロ3袋(90キロ)
地域活動支援センター「ほっとハウス」30キロ1袋

今年は食糧品価格の高騰、お米価格の高騰という世相を反映してか、昨年に比べてお届け先の皆様のレスポンスに大きな変化がありました。

お米の寄贈の激減により、子ども食堂等の支援や困窮世帯への支援が厳しくなっているとのことで、

児童養護施設でも子供たちの食事のやりくりに苦労されておられるとのことでした。

今の日本の混迷と困難さを想います。

こんな有難いご支援をして下さった㈱エコリース森本会長に感謝です。有難う御座いました。



頂きました

当会の活動を会員として、長年ご支援下さっている吉野川市のHさんご夫妻から、今年も手作りのブルーベリージャムをたくさん頂きました。

ご主人が栽培されているブルーベリーを朝摘んで、奥様がジャムにされているとのこと。手間暇かけて作られた貴重なものを、いつも本当に有難うございます。

地域活動支援センターほっとハウスの皆さんから、立派なパウンドケーキを頂きました。徳島市名東町にて、地域に根ざした活動を四半世紀も続けておられます。

とても美味しそうなパウンドケーキ、本当に有難うございました。

静岡県のSさんからお米が届きました。「亀の尾」というコシヒカリ、ササニシキの原種米です。種もみから、無農薬・無肥料で育てた力作です。

舌に自信という文字が見当たらない当会スタッフ・メンバーにとって、その価値を感じるためのハードルは高すぎて超えられませんが、おにぎりにして味わってもらおうかと、あれこれ思案しています。貴重な力作米を有難うございました。

当会2人目の一年間ボランティア(平成元年度)として参加し、スタッフとしても活躍してくれたFさんからココアが送られてきました。「ココア心とからだを温めてくださいね」と言葉が添えられていました。有難うございます。



左:リユース品の値札付け作業 右:頂いたお品物の仕分け作業(県職員 NPO 研修)

県職員 NPO 研修

10月5日、6日の2日間、徳島県のプログラムである「地域交流体験研修」で5名の徳島県職員の皆さまが当会に来られました。

「新規採用職員の皆様に地域を支える多様な団体の活動を体験して頂く」というこの取り組みも、今年で15回目を迎えました。太陽と緑の会は当初から毎年受け入れさせて頂いており、今年で計85名の皆様が参加されたことになります。

初日は、午前中代表杉浦によるパワーポイントを使用した事業説明、昼食を挟んで、13時から17時まで、様々なハンディを持ったメンバーと一緒に作業体験、2日目は10時から15時まで昼食・休憩を挟みながら作業体験、という例年通りのプログラムです。

参加されたすべての皆様が一通りの作業を体験できるよう、スタッフのSちゃんとMちゃんが段取りしてくれました。

「様々なハンディを持つメンバーさんとリユース・リサイクルの作業をする」という、人生で初めて最後になるかもしれない体験をして頂きましたが、書類では伝わりにくい事業のリアリティを少しでも感じていただけたら幸いです。

メンバーさんの方も、日頃自分が任されている作業の手順について研修生の皆様に説明したり、声掛けをしたり、普段の数倍は作業に積極的になったり、いつもとは違う表情が垣間見えて良かったと思います。

10月なのに夏のような暑いさなか、2日間皆様お疲れさまでした。

勤労者福祉 ネットワーク 研修

昨年に続き「社会課題に臨む一学とフィールドワーク」をテーマとした研修に、11月4日に15名、11月18日に12名の皆様が参加されました。

「人も物も活かされる活動を41年続けて」と題しパワーポイントを使用してお話させていただきました。

事務局長の小山が現場案内をした後、クイックルワイパー、化学雑巾、ほうきなどを使って、品物を見て頂きながら掃除をしていただきました。

「掃除が一番やれていないんです・・・皆さんにやってもらおうと非常に助かります」との説明の後、さすが勤労者福祉ネットワークの皆さんです、素早くきれいにやって頂きました。

有難う御座いました。

太陽と緑の会 ホームページ

NPO 法人 太陽と緑の会
The Sun and Green Association since 1971
today: 031 total: 250441 access, since 2000.3.27

太陽と緑の会 について	代表からの メッセージ	様々なハンディを 持ったメンバーが 働いています	様々な品物を リユース・リサイクル しています	アクセスマップ
品物のお引き取りの お問い合わせ	見学・研修・ 体験ボランティアの お問い合わせ	機関誌 バックナンバー	採用情報	ENGLISH



最新情報 (最新15件) RSS

11/20 勤労者福祉ネットワーク研修2 NEW
11/20 定休日・冬期休業のお知らせ NEW
11/4 勤労者福祉ネットワーク研修
11/1 事務局通信
10/31 お米が届けました
10/31 月の宮通信
10/25 事務局通信～おってもおらんでも…

10/21 事務局通信～割に合わない仕事
10/19 ほっとハウスにお米を届けました
10/18 城崎寺にお米を届けました
10/18 事務局通信
10/12 事務局通信～留学生とリユース自転車
10/11 月の宮通信
10/7 徳島県職員 地域交流体験研修
10/5 刈払機のトラブル

>> 次の10件
>> 過去の最新情報

太陽と緑の会ホームページは今から25年前、平成12年3月に開設しました。

年4回発行の機関誌と並ぶ、太陽と緑の会の広報ツールと位置付けています。

活動の概要、歴史、機関誌バックナンバーから最新情報まで、掲載しています。

ご家庭でご不要となった品物のお引取(回収)のお申込みや、見学・研修のご依頼も、ホームページからできるようになっております。

ご活用頂ければ幸いです。

また公式 SNS として、Facebook ページ、Instagram も開設しており、最新情報、リユース品のご紹介、セール開催のお知らせなどを行っています。

NPO 法人 太陽と緑の会
711 フォロワー

ページをフォロー

NPO 法人 太陽と緑の会
10時間前

「(公財) 徳島県勤労者福祉ネットワークの皆さんの研修第2弾」通信 R7.11.20
「社会課題に臨む一歩とフィールドワーク」をテーマに研修第2弾として、11月18日(火)12名の方々が参加されました。2階の図説室にて「人も物も活かされる活動を41年続けて」と題したP.P.を使って、前半、後半とお話させていただきました。バックナンバーの機関誌とパンフレットを配り、リサイクル作業所所長・事務局長・理事の小山が案内し、クイックルワイパー、化学雑巾、ほうきなどを使って、品物を見ていただきながら掃除をしていただきました。パワフルな女性陣、素早くきれいに取り組んで頂きました。有難う御座い

NPO法人 太陽と緑の会 Instagram

特定非営利活動法人(NPO法人) 太陽と緑の会

太陽と緑の会事務局 / 地域活動支援センター 太陽と緑の会リサイクル作業所
〒779-3120 徳島県徳島市国府町南岩延107-1 TEL・FAX 088-642-1054
[活動時間]午前10時～午後6時 [休み]毎週水曜日、毎月第2・第4火曜日とその前日の月曜日
障害者地域共同作業所 太陽と緑の会の宮作業所
〒779-3133 徳島県徳島市入田町月ノ宮227-39

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2025 年 9 月 1 日～2025 年 10 月 31 日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

米田、河野、中井(郵便振替口座)中村

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○榎本、木下、板東、大杉、林、高橋、松下、丸橋、藤野、米田、佐藤、松本、岡、西、安永、田中、庄野、藤本、前田、長澤、福田、福岡、矢部、近藤、カネマ、岡田、岡本、佐野、石山、堀井、山本、加藤、中園、田村、西、井川、長江、渡辺、板東、河野、川端、宮本、澤田、多田、オオウエ、片寄、大島、富永、三宅、瀬尾、元木、新見、鈴江、中川、日下、村田、唐崎、幸田、工藤、馬瀬、黒山、美馬、阿部、前田、藤本、谷、アイハラ、宇原、照本、福永、芳川○石井町○篠原、白木、中原、田中、高橋、マエダ、後藤、清水○上板町○木下、安芸、村上○板野町○鎌田、福原○藍住町○古川、楠本、山田、上田、犬伏○美馬市○樋口、福山○吉野川市○大須賀、近藤、小原、渡部、奥田、細川○神山町○野原、宮本、織田、松村○阿波市○大島、鈴田、吉本○阿南市○原○鳴門市○忠津、新口、渡辺、田中○三好市○森○福島県○小野○福岡県○永峰○京都府○大谷○香川県○吉岡○静岡県○杉本

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○寺橋、近藤、宇治製菓、松友、キョーエイ配送センター、矢田、國見、森尾、須見、宮井、池添、赤松、北江、穂田、滝下、木村、浜口、佐藤、蛭子、あおばの杜 谷、岩城、都築、渡部、横田、香川、植松、福井、松原、日下、松永、毛利、伊藤、森友、吉田、森、三輪、下泉、浜野、和泉、山西、松崎、三木、ピンク美容室、山田、佐川、長谷川、田中、正城、出口、岡田、安永、大浜、西城、田村、大櫛内科、吉岡、佐野、山本、八木、橋本、上地、仁木、岸、内藤、高山、庄野、TFI 管理センター、井上、北村、板東、山下、守野、富島、藤田、栗飯原、穴吹ハウジング、佐藤、穴吹ハウジングサービス、椎野、山西、岡脇、宇原、高橋、大島、小野、横田、遠藤○小松島市○埴淵、酒井、小林、木下、森、齊藤○吉野川市○岡田○石井町○三木、河野、桑原、奈良、コウノ○鳴門市○新田、宇井、川井、林、米田、久龍○板野町○藤井○藍住町○浜川、花木、秦、野本、安芸○北島町○山下

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。旬のお野菜や果物(白菜、大根、ネギ、スダチ、柿など)を持って来て下さった皆様、お飲み物やお菓子を下さった皆様も有難うございました。お野菜は作業所の食材として大切にに使わせて頂いております。諸物価が高騰している中、本当に有難いです。

愛知県のMさんから未使用の切手が届きました。いつもありがとうございます。ゆうパックでの郵送などに活用させていただきます。

品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられます。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」とご記入頂ければ幸いです。



手作りブルーベリージャム



無農薬のスダチ



パウンドケーキ

ほっとハウス
さんから
頂きました

定休日

2月 February

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月 March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※白抜き数字の日がお休みの日です

「働き方改革」という時代の要請により、当会も以前よりお休みの日を多くさせて頂いております。

当会をご利用頂く皆様にはご不便をおかけすることになるかと思いますが、宜しくお願い致します。

4月 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

編集後記～年を重ねて

今年も残すところわずかとなりました。1年1年があつという間に過ぎていく中で、太陽と緑の会の作業所に通ってくる様々なハンディを持ったメンバーさんも、それぞれ年を重ねていきます。

平成17年2月の火災に遭う前の「(旧市役所仮庁舎を移設・再利用させて頂いた)プレハブ2階建ての建物」の時代から通ってきてくれているメンバーさんもいます。

最古参の電話担当メンバーAさんは作業所に来るようになって42年目になりました。70代半ばとなった今も、持病はなく、風邪で休むこともほとんどありません。毎日10時から18時まで電話番をしてくれています。

日曜日や夕方に奥の倉庫でいるメンバーGさんは36年目。たまに自転車コーナーでたずんでいることも…。

奥の倉庫で頂いた品物の仕分け作業を担当するメンバーFさんは34年目。昔のFさんしかご存知ない方は、スマートになったFさんを見て驚かれるかもしれません。

レジ担当メンバーBさんは30年目。手際よく確実に仕事をこなし、他のメンバーさんからも、職員からも頼りにされています。

日曜日や夕方に奥の倉庫で仕分け作業を担当するメンバーHさんは28年目。

売場担当メンバーのCさんは27年目。お客様のご案内や対応のため、レジの人から

名前を呼ばれることが最も多いのもCさんです。毎週日曜日の昼食のカレーで使う肉や野菜などの食材もカットしてくれています。

電話担当メンバーのIさんは26年目。自作詩集の対面販売も行っています。

値札つけ担当メンバーのDさんは23年目。作業が終わった後のお買い物も楽しみの一つとなっています。

衣料品担当メンバーのEさんは17年目。今の建物になってから来てくれるようになりました。毎日の昼食の味噌汁作り、資源ごみの積み込み作業、トラックでのお品物の引取(回収)作業と、幅広くやってくれています。

ひとりひとり年齢もハンディも様々、得意なこと苦手なこと好きなこと嫌いなことも様々、作業時間も日数も皆違いますが、それぞれが自分のできることは自分でやり、できないことは助けてもらいながら、日々日常を積み重ねてきました。

メンバーさん同士の相互関係から生じる化学反応によって、こちらの想定を超えるような展開になることもあります。

それがこの活動の醍醐味とも言えるかもしれませんが、そのためには傍らにスタッフの「セルフコントロール」が肝要で、自分の感情や行動を、ある程度自分で制御できないと太刀打ちできません。

メンタルに不安を抱えた方が「(民間企業は厳しいから自信がないが)ここなら受け入れてもらえるかも」と福祉の職場に職員として応募してくることが時々ありますが、うまくいかないことも多いのが現実です。

経験したことのない困難な場面に直面したとき、これまで自分が歩んできた道のり、培ってきた物の考え方、育んできた力量など、自分自身のすべてが試される。絶え間ない素振りが必要とされる世界です。

己の経験といっても、狭い世界でたかだか数十年のものに過ぎず、それだけでは圧倒的に足りないから、書物を読んだり、話を聞いたりして、学び続ける必要があるのだと思います。(文責:小山)

本誌を持って新年のごあいさつに代えさせて頂きます。本年は有難うございました。
新年もよろしくお願い致します

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住

年会費: 正会員 1万円 (総会議決権)

準会員 1,000円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名: 特定非営利活動法人太陽と緑の会